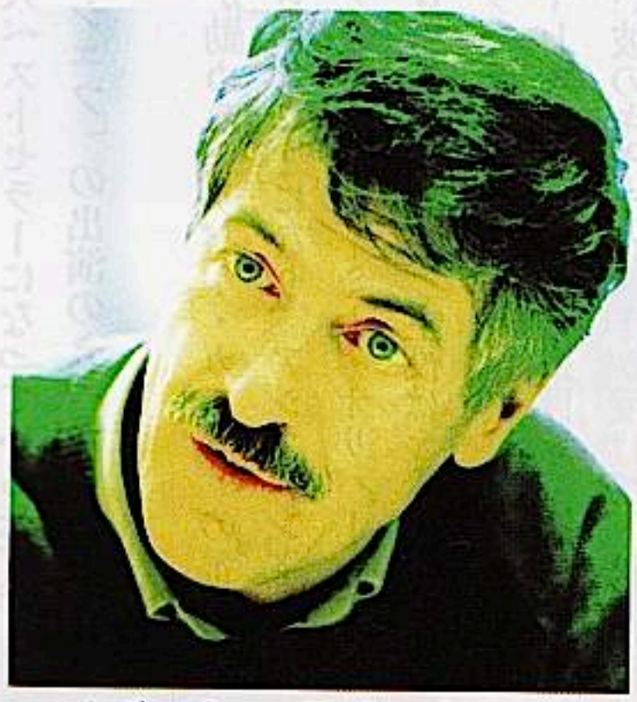
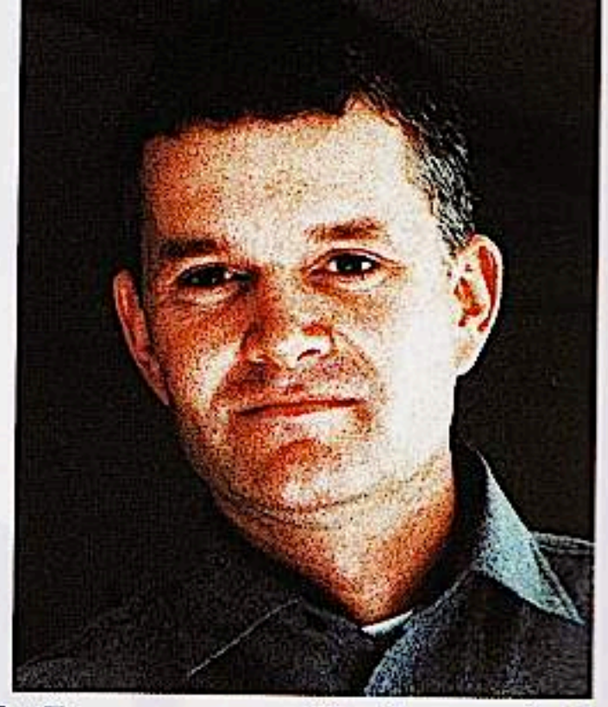
Laurence Holt



Alain Lipietz



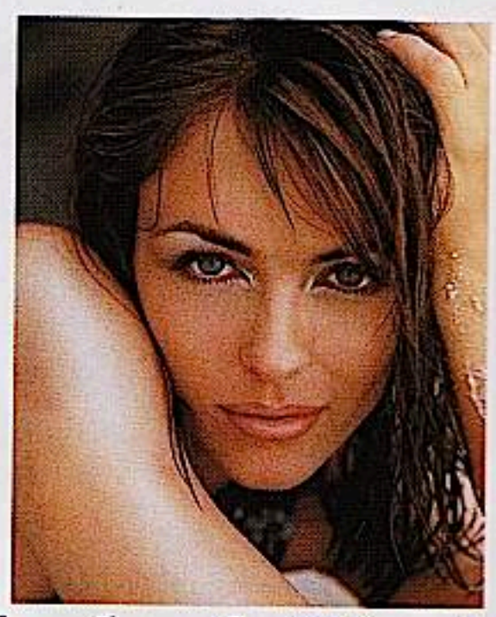
Morten Schmidt
(Schmidt Hammer & Lassen K/S)

今月のトップランナー

EU200

øren Kragh-Jacobsen

Rachel Briggs
(The Foreign Policy Centre)



Elizabeth Hurley

Stephen Edwards
(The Foreign Policy Centre)

Jamie Oliver

 Special thanks: Keiko Kuroi Yasuyo Fujimoto

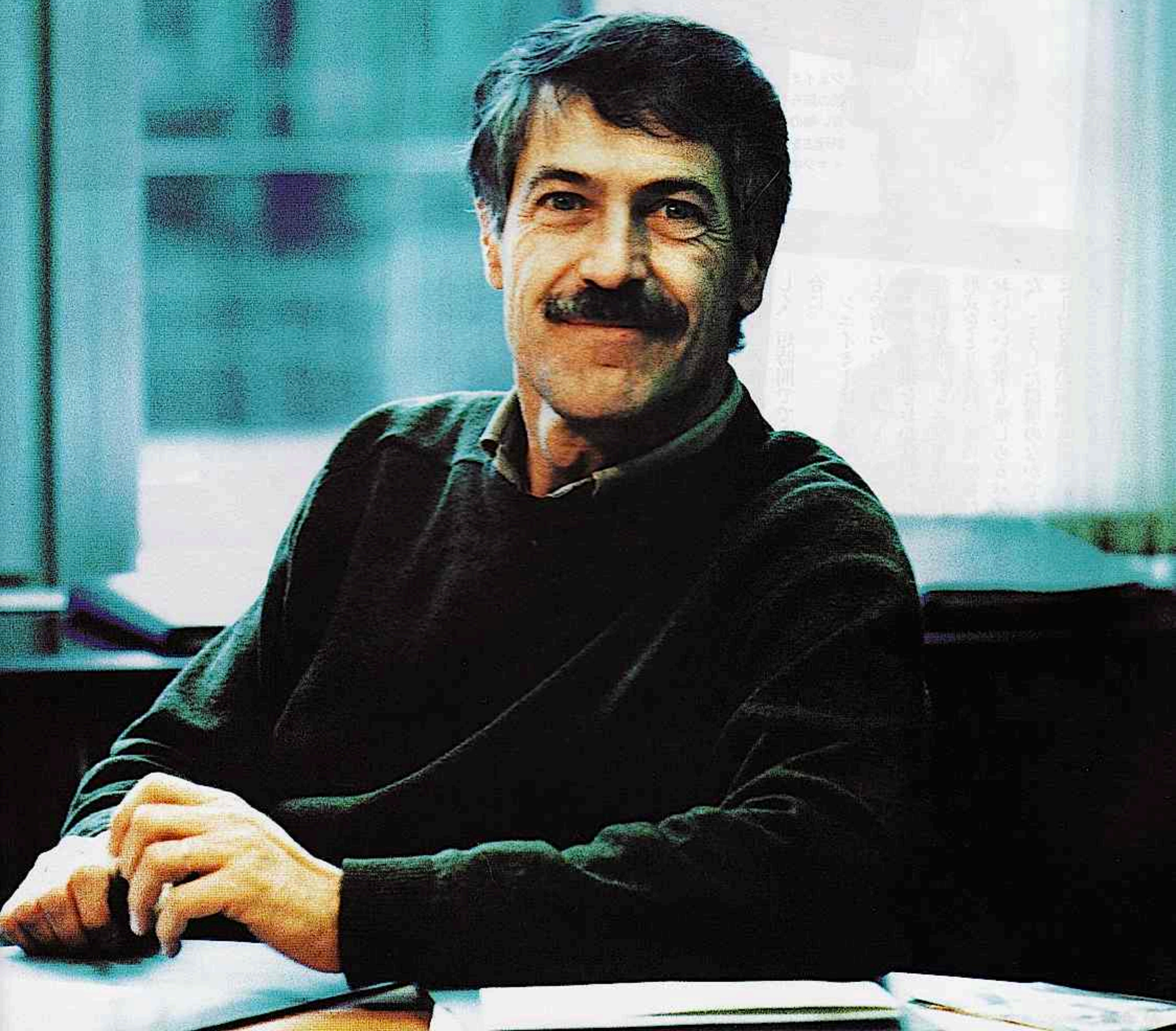
アラン・リピエッツ52歳。1984年、緑の党を設立以来、経済政策を担当。フランスのジョスパン政権の主要な経済政策の立案にも携わっている。昨年、フランスの緑の党から選出されて欧州議会議員となる。

'68年当時パリの5月革命の闘士であったアラン・リピエッツ氏は、自らの闘いの場をカルテエ・ラタンから欧州議会へと変えたわけだ。

近年の緑の党のパワーはフランスをはじめ、イタリア、フィンランド、ベルギー、スウェーデンなどで連立政権に参加するほどになっている。いま盛んに言われているグローバライゼーションについての質問をアラン・リピエッツ氏にぶつけてみた——。

グローバライゼーションは、新しいものではない。16世紀、すでにヨーロッパは世界中にでかけていき、原住民たちの文化・生活習慣を変えてしまったのである。これほどのショックは現在のグローバライゼーションとは比較できないほど大きなものであっただろう。我々が目指す経済政策の基本は、グローバライゼーションに対しては地域社会創りである。地域社会の自給自足を考えるべきだろう。地域内での生産性を高め、あわせて消費率をも高めていく。商品の買い換えでなく、修理して再利用する。修理は生産性の高い経済的な活動ではないけれど、雇用につながっていく。やがてくる老齢化社会に備えることを思えば地域社会の創造は必要であり、切実である。

EUにおいてこうした将来の社会を見



据えたビジョンを明確にうちだしているのは、我が緑の党である。

欧州議会において緑の党が推進している課題は、①欧州議会の権限の強化 ②欧州中央銀行の民主的なコントロール ③雇用対策などの統合 ④環境政策の統合 の4つだ。経済・金融だけのEU社会でなく、環境・福祉社会のEUに変えていきたい。EU内での南北問題、労働賃金比率の格差是正、これらは10年20年後と時間をかけて実現していく。またその確信を持っている。

と、かつての5月革命の闘士は、当時の情熱そのままに一気に話をしてくれた。さらに続けて……

グローバライゼーションを恐れることよりも、むしろ、簡単に弱音を吐く人間がいなくなることを私は望んでいる。理想に向かって進む人々が暮らしやすい社会であることを望むし、こうした社会を創造するために努力する人が増えていくことを望んでいる。「グリーン・イズ・ザ・カラー・オブ・ホープ」を合言葉に！

と、彼は結んだ。

「緑は未来の色」と語った

Alain Lipietz

アラン・リピエッツ